

私立高校生の保護者負担を軽減し、学費負担の公私格差を是正する

ために尾張旭市独自の授業料助成制度の拡充を求める陳情書

討論要旨 山下幹雄議員

私は、過去にも同様の陳情におきまして討論をさせていただいてまいりました。現在実施している本市所得による補助事業につきましては、十分承知をしております。趣旨は当時と変わっておりません。数値ありきでなく、本市の教育行政の立ち位置を示す施策であると考えています。

今日の私立高等学校は、それぞれの特徴を生かし、魅力ある校風をつくり上げています。民間である私学は、少子化の中、切磋琢磨し、経営競争を乗り越え、人材育成に力を注いでいます。尾張旭市から通学可能な私立高等学校は、30以上あります。その魅力に引かれ、自ら求めて進学を夢見る生徒もたくさんいます。

今日の日本社会全体、本市も漏れることなく超少子化、人口減少が進んでいます。何とか食い止めなければなりません。

このため施策が100あるならば、例えば、尾張旭市で出身の中京大中京高校から野球少年の夢でもあるプロ入りを果たすような人材が私たちの町をバックボーンとして、誕生しました。このような少年や青年が次々と誕生できる土壌を保持することが100のうちの1であれ、積み重ねることは大きな意義があると捉えています。

そしてこの取組は、尾張旭市の教育行政の姿勢を広く市内外に発信する機会と考えます。子供を産むなら尾張旭、子供を育てるなら尾張旭と子育て世代の市民より、私たちには尾張旭市行政がついていけると言っていただけのような政策を打っていかうではありませんか。こうしたことより、成長戦略を持った教育施策の一つとして、私学助成拡充を求める陳情に理解をするものとし、賛成討論といたしました。